

「聟島列島で逢えるイルカたち」

私たちが行なっているイルカ調査では、群れで生活しているミナミハンドイルカの体にある傷跡やヒシの特徴をもとに一頭一頭のイルカを識別しています。この調査を続けていくことで、イルカの成長状況や繁殖状況など、イルカの生態に関する様々なデータを得ることが出来るのです。今回の「イルカ通信」では、聟島列島のみで確認されているメスのイルカをご紹介します。



#210 の特徴

上の写真を見てみると、左の胸ビレにアルファベットの「C」のマークがあるのに気づきましたか？この個体(ID#210)は、2006年から聟島列島でのみ確認されているメスのイルカです。最初に確認した時点で、母親が近くにいなかったため、既に離乳したワカメスだったと考えられます。昨年から子イルカを連れている姿が確認され、今年の7月にも2度ほど、子イルカと一緒に泳いでいたので、#210の子供と考えて間違いのないと思います。

その他にも右の下に示した個体(ID#173)は、口元に特徴があり、#210と同様に2006年から確認されている



#210 の子供（手前）



#173 の特徴

メスのイルカです。これまでの調査から、子供を連れている姿は確認できていませんが、そろそろ性成熟を迎える頃かもしれません。まだまだ特徴のあるイルカは他にもたくさんいるので、皆さんもお気に入りのイルカを是非見つけてみてくださいね。



「イルカを語っておかナイト」

日時：8月3日、11日、21日

19:30～20:30

場所：小笠原ビジターセンター新館

費用：資料代として300円

※OWA 会員無料・対象：中学生以上

小笠原の海に生息するたくさんのイルカ・クジラたち。ナイトレクチャーでは、小笠原に住むイルカ・クジラの生態を幅広く紹介します。

